

令和４年度学校自己評価表				鳥取県立米子南高等学校			
中長期目標 (学校ビジョン)	【 大胆な挑戦 】	1 意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」 3 変化を求める＝「現状に満足しない」「アンテナを高く張る」		今年度の重点目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 キャリア教育の充実 4 地域社会への貢献 5 的確な情報発信 6 業務改善の取組		
年 度 当 初					中 間 評 価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	年度末に向けての改善策
【基礎学力の向上】 ○社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得 ○「やる気を引き出す」授業の工夫・改善	○家庭学習を充実させ、基礎学力の定着 ○一般教養を習得させ、社会人として必要な力の修得	○学校評価アンケートでは、１日あたり１時間以上の家庭学習を行う生徒は２６％と少ない。関連して、家庭学習や自主学習ができていないかの問いでは、４８％ができていないと回答している。 ○ICTを活用した授業を実施したと回答した教員は、８２％、授業アンケートの集計結果等にもとづき、生徒にとってわかる授業の工夫を進めた教員は、８７％である。 ○生徒の授業理解における肯定的評価は８５％であった。また、朝読書・朝勉強テスト等で知識が身についているとする生徒は８１％であった。	○１日の平均家庭学習時間が１時間以上である生徒が４０％以上である。 ○ICT等を活用し、生徒の興味関心を育み、考える力を培う授業が広く実施されている。 ○生徒の授業理解における肯定的評価が９０％以上、また朝読書・朝勉強テストで知識が身につけているとする生徒の割合が８５％以上である。 ○主体的に学習に取り組む生徒が増える。	○定期的な宿題、各種検定、One Weekトライアル、基礎学力テスト、朝勉強テストなど生徒にとっての身近な学習機会を通じて学習意欲を喚起し、家庭学習を充実させる。 ○一人一台端末導入初年度であり、Google Classroomの活用等、授業改善を目標に、主体的・対話的かつICTを活用した授業を設計できる教員を増やすため、教員研修の機会を設ける。 ○読書活動が円滑に進むよう「らいぶらりん」、「図書館通信」の内容を充実させて情報提供していくとともに、活動内容の提案をしていく。 ○朝の読書活動が円滑に進むように支援を続ける。 ○生徒が主体的に考える授業を工夫する。	○家庭学習の習慣を定着させている生徒も見られるが、全く行わない生徒もあり、その学力差の広がりが懸念される。 ○単元ごとや定期的に復習のための課題を課すなど、生徒の家庭学習を促す取組ができた。しかし、オンラインでの課題やChromebookの活用ができなかった教員も一定数おり、ICT教育の技術を身に付ける必要がある。 ○授業で司書のTTや活動内容の提案はおこなえている。情報提供はさらに幅広くおこなう必要がある。 ○朝読書を継続する意義についてまだ十分には浸透していない。	B	○基礎学力が低い生徒への指示や課題を明確化し、少しずつ達成感を感じさせるような指導を行う。 ○Chromebookの積極的な活用を促す。 ○STEAM教育の展開を見据え、図書館を活用した授業事例などの情報提供をおこなう。 ○朝読書を学校全体で取り組んでいくために、本と生徒とを結びつける環境（蔵書の充実と広報など）を調べていく。
【基本的生活習慣の確立】 ○知・徳・体のバランスが取れ、社会人として必要な規範意識を身につけた人物の育成 ○あいさつの励行、ルールとマナーを遵守することの啓発	○知・徳・体のバランスが良い生徒の育成 ○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得	○授業前後の分離礼の取組は概ね成果を上げ、習慣化しているが、生徒によっては取組姿勢にばらつきがある。特に、自ら率先して挨拶ができる生徒は多くない。 ○多くの生徒が服装頭髪検査で問題ないが、社会人として必要なモラルやマナーに欠け、指導の対象となる生徒が若干名いる。 ○SNSを利用している生徒が多く、トラブルが増加の傾向である。 ○多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っているが、中には人間関係に悩み、不安を抱え、基本的生活習慣が乱れる生徒がいる。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識、特に情報モラルの意識が高まっている。 ○自ら率先して挨拶する生徒が増える。 ○生徒が主体的に考えて行動し、より良い人間関係を築き、充実した学校生活を送っている。 ○分離礼の習慣が学校生活全体に浸透している。 ○学校評価アンケートで、生徒・保護者の「基本的生活習慣の確立」項目の肯定的評価が９０％以上である。	○生徒会執行部を中心とした生徒主体のあいさつ運動を展開していく。 ○SNS利用に関する情報提供やトラブル防止の啓発活動を継続して実施する。 ○服装指導、遅刻指導について、家庭との連絡を密にして取り組む。 ○不安を抱えている生徒について、教育相談担当を中心に迅速に対応し、担任、学年団、SC、SSW及び関係機関と連絡を密に行い生徒を支援していく。 ○分離礼については、できるまで繰り返すなど徹底して指導する。 ○人権教育・保健・教育相談・生徒指導の観点で生徒を支援する。	○おおむね落ち着いた生活を送っているが、基本的なルール・マナーが守れない、提出物の期限が守れないなどの生徒も目につく。 ○新制服のイメージ定着の担い手であると度々説いていることもあり、着こなしはおおむね良好である。 ○分離礼の実施について教員側の指導はおおむね定着している。 ○生徒会執行部の活動としては生徒が自主的に挨拶運動等を企画し定期的に実行することができていたが、学校の美化活動については教員からの事前指導も十分ではなく目標とする水準には至らなかった。 ○ハイパーQU、ストレスマネジメントLHRを実施した。また保護者や外部関係機関とも連携し、生徒に対応している。 ○ポスター掲示や校内放送、保健だより等で基本的な感染症対策を啓発している。 ○日頃から学校生活の中で必要な配慮が意識化され、人権の視点を大切にした指導ができている。	B	○引き続き、校内外でのマナー・ルール・モラルを意識して行動できるよう、様々な機会をとらえて粘り強く指導する。 ○１年生は新制服の着こなしなど、新たなイメージ作りを目標とするよう指導する。 ○年度後半も、分離礼ができていない場合は時間をかけてでもやり直すようにすることを継続する。 ○後期の生徒会長、執行部が中心となり自主的な活動や新たな取り組みの計画や実行ができるよう、教員からも指導、助言を働きかけ、積極的な活動の支援を行う。 ○生徒支援において、引き続き様々な関係機関と連携しながら迅速に対応していく。 ○基本的な感染症対策の呼びかけを継続し徹底する。 ○人権が尊重される教育目標を再度確認し、指導を継続していく。
【的確な情報発信】 ○学校の様子や教育内容等の伝達の工夫 ○学校に対しての正確な認識の形成	○メディアを利用した教育内容のわかりやすい伝達 ○特色ある専門高校としての人財育成に取り組む姿の発信	○ホームページを中心にイベントだけでなく授業内容についても掲載し、鮮度の高い情報を頻繁に発信した。また、商業学科の生徒が中学生にわかりやすい内容に編集した学校案内を作成した。	○生徒が成長していく過程がわかるような情報を発信していく。 ○米南みつばち学習発表会を多くの地域の方や中学校関係者に見ていただき、本校の特徴を理解していただく。	○ホームページの情報発信の推進担当を中心に、分掌、学科、部活動等で情報を提供しホームページ・Facebookの更新を積極的に行っていく。 ○校内行事においても各メディアでの情報発信を積極的に行う。 ○米南みつばち学習発表会のパンフレットを作成し、中学生や地域の方に配布する。	○HP、facebookによる情報発信が定期的にできている。 ○みつばち学習発表会は、２月1日の実施を目指して準備をすすめている。 ○Webページでの発信の他、県を通じて授業紹介動画を提供したり、中学校体験入学、在校生が中学校へ訪問しての学校紹介を行うなど、様々な方法での情報発信ができた。 ○学習の様子も頻繁に情報発信できた。	A	○引き続き、情報発信に努める。 ○年度後半も、特徴のある活動があった場合には発信できるように、TTの授業でのサブ担当や実習助手が撮影・発信を担当する。単独授業では可能な範囲で発信する。 ○様々な取り組みを通じ、商業学科及び家庭学科の魅力を地域に発信する。

評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	年度末に向けての改善策
【キャリア教育の充実】 ○適切な職業観・勤労観を持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む人物の育成 ○インターンシップの早期計画と進路LHRの活用 ○地元産業との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○資格取得の合格率向上のための指導法の工夫	○系統立てた指導により、職業観・勤労観の育成を図り、課題研究等を充実させ、主体的積極的な取組の推進 ○インターンシップ等、体験学習の充実 ○進路実現に向け、地元産業・大学等を理解促進を図り、進路意識の向上 ○資格取得に向けた取組を推進し、より高度な専門資格の取得	○本校が取り組んできた進路指導、キャリア教育を基礎として、キャリア・パスポートを作成した。 ○1年生は進路希望別に学校企業見学会を実施した。2年生は多くの事業所の協力を得てインターンシップを計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。そのため、職業観・勤労観を持てていない生徒もみられ、進路に対して明確な目標を持てていない生徒もいる。 ○3年生は課題研究によりその専門性を深化させるとともに、希望する進路実現のために面接、小論文の学習に取り組んでいる。 ○各種資格試験に熱心に取り組んでいる生徒は多いが、それに見合う十分な成果は得られていない。	○キャリア・パスポートが実効性あるものとなるように修正を加え、3年間を見通したキャリア形成の道筋をつけるものにしていく。 ○インターンシップに主体的・積極的に参加し、職業観・勤労観を高め、自らの明確な進路意識につながっている。 ○就職希望者が全員内定を得ている。 ○各種資格試験の合格率が目標に達している。また、進路を意識し積極的に上位級を目指している。 ○人間力と望ましい勤労観・職業観が育成される。 ○読書活動を支援し、生徒の知的好奇心を刺激し、読書意欲の向上みられる。	○キャリア・パスポートの活用において、年間スケジュールのもと教員間の共通認識を大切に活用推進に取り組む。 ○前年度1年時に受入先の事業所を確保し、生徒の行き先の事業所を決定するなど実施に向けて準備を進めていくことで生徒のキャリア意識を深めていく。 ○コロナ禍ではあるが協力していただける企業等の数は変わりないため、密に連携し感染対策を行った上でインターンシップを実施する。 ○3年生の面接指導の実施時期を早め、全教職員で指導していくことにより生徒の進路意識や発信力を高めていく。 ○資格試験対策においては、知識の伝達の学習にとどまらず、学習方略を指導することで、生徒の主体的学習を促す。また、家庭で復習できる教材を用いて知識・技能の定着を目指す。	○キャリア・パスポートについては計画的な運用に努め、行事日程の調整を図っている。 ○進路ガイダンス等を経て徐々に意識を高める生徒もいるが、全体的にはまだビジョンは曖昧である。 ○3日間のインターンシップを経験することにより、働く意義や自身の進路について深く考える機会となった。報告会などの振り返りをしっかり行うことにより、生徒の進路意識向上につながった。 ○進路指導については、担任団、キャリア形成部、生徒支援部等と連携し丁寧な指導ができている。 ○進路意識の高まりから、1学期は授業への取り組みも向上し、家庭学習を行う生徒が増加しており全体の成績も向上した。 ○面接指導や小論文指導に生徒が積極的に取り組んでいる姿が見られる。	B	○キャリア・パスポートや進路ガイダンス等関係行事について、現状に合わせながら計画的な運用をおこなう必要がある。 ○科目登録や面談の場を生かして、進路意識の高揚につなげる。 ○個々の進路実現に向けてより具体的に自らの進路目標を考えられるよう促し、職業観・勤労観を育成する。 ○進路を意識しながら授業・家庭学習・資格取得などに積極的に取り組めるよう雰囲気づくりに務める。 ○進路実現に向けて個々の生徒の状況に合わせて丁寧にサポートする。 ○進路決定後も継続して学びに向かう意識を高められるよう努める。また、進路決定後の生活に乱れが生じないよう個々の生徒を丁寧に観察し指導する。
【地域社会への貢献】 ○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与する人物の育成 ○社会貢献の推進、校外の教育力の活用	○地域活力の導入や地域活性化の推進 ○学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財の育成	○商業学科課題研究では、米子市公会堂と連携したイベントを継続して開催している。地域とのつながりを伴う活動を通じて、自らのキャリアデザインのきっかけをつかみ、進路選択の参考にできる生徒が出てきているが、全ての生徒が行えているわけではない。 ○家庭学科課題研究では、例年いくつかの生徒企画によるものが商品化され、試食会や販売活動等ではマスコミに大きく取り上げられてきたが、コロナ禍で多くの企画が中止となり地域貢献が十分行えていない。 ○生徒会の活動では校則についての確認や提案をおこなうなど批判ではなく改善のための積極的な取り組みを行う事ができている。また校内の美化にも関心を持ち、学校生活をより快適におくるための提案や具体的な取り組みを行っている。 ○ハンセム高校との交流が中止となっている現状ではあるが、韓国の高校とのオンライン交流や外国人講師を招き文化交流を行うなど国際理解をより深める活動を行った。	○地域と連携した取組をさらに充実させていくとともに、課題研究等を通じてそれに関わる生徒、職員を増やす。 ○2月開催予定の米南みつばち学習発表会を目標として、地域をより理解し、行動できるようコミュニケーション力・プレゼンテーション力を向上させる。 ○他者と協調し計画性や目標を持って各種の行事等で活動できる生徒を増やす。 ○自らが模範となり他の生徒をまとめ、率先して行動できるリーダーを増やす。 ○PTAとともに計画する国際交流のための行事等を通じ、外国文化の理解、交流の機会を設け国際理解教育の推進が図られている。	○活きたビジネス教育を実現していくためにも、生徒が地域の方々に出会って地域課題に接する機会を増やし、問題解決力を養っていく。 ○商業学科「課題研究」（観光ビジネス）の充実を図るため、先進校視察など積極的に取り組んでいく。 ○地域貢献への高い意識を持ち、イベントには多くの生徒、教員が関われるよう校内での連携を図る工夫をする。 ○新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、課題研究発表会やファッションショー、卒業作品展など学習成果を発表する機会を確保する。 ○執行部の生徒自身が学校生活全般を振り返り、問題意識やそれに対する改善策を具体的な形で表す。さらに執行部が中心となり他の生徒の協力も仰ぎながら学校全体の取り組みとなるよう活動の拡大化、活発化を図る。 ○生徒会や各委員会活動、地域への活動等を通じ、責任感や協調性、積極性を育む環境を整える ○コロナ禍での活動制限もあるが国際理解を通じ交流事業の継続を目指す。保護者だけでなく生徒や地域社会に還元できるような活動を計画し実行する。	○今年度は、年度前半から社会人講師を招いての講演を実施できたものもあり、おおむね計画通りである。 ○今年度は年度前半に地域と連携しての活動を実施できたものも多い。 ○昨年は録画でしか実施できなかった社会人講師も対面で行い、特に実習は効果が大きかった。ジビエ協議会、高齢者施設、栄養士会など外部との交流も再開している。 ○執行部、各委員会と地域社会と連携した活動は実質できていない。 ○国際交流についてはPTAの部会等の開催など現時点で可能な範囲ではあったが活動を行うことができた。	B	○年度後半で実施を予定しているものもあるので、継続して地域との連携ができるように取り組んでいく。 ○引き続き感染症対策に留意しながら地域ボランティアや地元資材の商品化等、地域貢献に取り組む。さらに課題研究発表会等様々な学習成果発表の機会を設け、生徒の成長を図る。 ○地域社会との接点の機会が持てるよう情報の収集や呼びかけを計画する。 ○国際交流については保護者だけでなく、生徒に向けての活動ができないかを検討する。
【業務改善の取組】 ○働き方改革の推進 ○時間外業務の削減	○ワークライフバランス確立の推進 ○長時間勤務者の解消	○時間外勤務時間は令和2年度に比べて15%の削減はできているが、個人よっての偏りが見られる。 ○各種委員会の精選、部活動顧問人数の削減を行った。	○各個人の時間外業務が月30時間（最大45時間）以内、年360時間以内となっている。 ○「部活動に係る活動方針」に沿った部活動が行われている。	○分掌業務が効率的に遂行されているか注視していく。 ○休日の部活動においては、できるだけ顧問間で分担する。	○学校全体業務の組織化と効率化を実施することができた。 ○時間外業務の総量としては昨年度並みであるが、個人差が大きい。	B	○今後も学年主任、分掌主任に聞き取りを行いながら業務改善に努める。 ○衛生委員会を中心に業務改善に努め、時間外業務の削減を図る。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】